



溶接界発展のための日本溶接会議（JIW）の改組と日本溶接協会との共同事業の開始に関する件

当会と一般社団法人日本溶接協会は、両団体で運営を図ってきた日本溶接会議（JIW）を改組し、国際溶接学会（IIW）の対応を充実させるとともに高い見地から当会及び日本溶接協会の共同事業を推進することを両団体の理事会において承認しました。10月1日から順次活動を開始いたします。

近年、中国等における現地生産コストの上昇等により製造の日本への国内回帰が一部で顕著になるとともに、2020年の東京オリンピック需要やインフラ投資等により国内の建築鉄骨部門は好調な状況にあります。これらを背景に溶接関係者の不足は顕著になってきており、日本溶接協会が実施する溶接管理技術者や溶接技能者の受験者数は昨年度より増加に転じております。然しながら地方を中心とした溶接教育関係者の減少は深刻に必要な溶接教育を十分に実施できない状況にあるため、新規受験者の合格率低下が顕著となっています。世界的に特殊工程と類される溶接は、認証による品質維持が必須であり、このままでは世界をリードする日本の工業製品の基盤技術である溶接の品質を維持することが難しくなることが懸念されます。

その中で溶接界における研究者数の減少は、3Dプリンタ（Additive Manufacturing、積層造形）や超高張力鋼の溶接など最先

端の研究に関する競争力を低下させるものとなります。また、地方を中心とした教育研究者の減少は溶接研究だけでなく溶接教育そのものの機会と質を低下させるものとなります。

以上のように溶接界が直面している危機的状況に鑑み、当会と日本溶接協会は溶接界の発展のために一致協力して取り組むことといたしました。

具体的には日本溶接会議（JIW）を従来のIIW対応に加えて、当会と日本溶接協会が共同推進が必要な企画を幅広い視点から立案する組織に改組するものです。共同企画立案のためJIWに共同企画委員会を設置し、当会の企画委員会と日本溶接協会の総合企画会議とが連携し、溶接界発展のための新たな取組みを立案・実行するものです。

本案は9月6日にJIW理事会、9月14日に当会理事会、9月28日に日本溶接協会理事会において承認を得たため、新体制に10月1日より移行していきます。

今後、JIWの共同企画委員会委員の選任と具体的な活動案作成を開始し、12月を目処に新体制によるJIWの第1回理事会にて審議する計画です。

【平成28年10月5日プレスリリース】